

妹背牛出身の元高校生チャンピオンがカーリングチームを再結成！



仲間に指示を出す
スキップの南さん



試合の流れをつくる
セカンドの齊藤さん

妹背牛町出身で、カーリングの実力を
全国に広めた元高校生チャンピオンの2
人がチームを再結成し、学生時代の練習
を支えた地元の大会関係者にその成長ぶ
りを披露しました。

2人は、南真由さん(29) 札幌在住
 〓と齊藤瑞季さん(30) 旧姓・北口、
北見在住〓。お互いにあだ名で呼び合う
幼馴染みは、2011年、12年の全国高
校カーリング選手権で2連覇を達成した
選抜チームの一員です。

進学した札幌学院大でもチー
ムメイトだった2人は、卒業後
の就職や留学をきっかけにチー
ムを解散しました。

南さんは18年、札幌の仲間
と一緒に女子カーリングチーム
「STRAHL」(シュトラール)
を結成。活動拠点を北見に移し、
試合を観戦していた齊藤さんが
「またカーリングをやりたい」と、
チームの欠員を補う形で、22年
5月に加入しました。

昨年12月の北海道カーリング
選手権に出場した2人は、故郷
のカーリングホールで顔見知り
の協会スタッフと再会。「成長し
た自分たちのプレーを見てもら
うことで、ジュニア時代からお
世話になっている妹背牛の人た
ちに恩返しをしたい」と、試合
に臨みました。

「アイスリーディングとシヨッ
トの軌道修正が課題」と、惜しく
も3位に終わった大会を振り返る
南さん。試合後、齊藤さんは今シ
ーズンの目標について「精神的にも
支え合える仲間と日本選手権に出
場したい」と、話しました。

となりの外国人

担当：グエン・カン・リン

ベトナム人の地域おこし協力隊員が町内の外国人を紹介する企画です。

12月14日(土)、私たち(フォンとリン)は
小学生7人やその保護者と一緒に、食文化交流会
で「チューチョイヌオック」(ベトナムのおやつ)
を作りました。冬に食べる日本のお汁粉のような、
緑豆あん入りの温かい白玉団子です。

交流会では、ホクレン包材株式会社のベトナム
人技能実習生3人に手伝ってもらい、みんなで楽
しく豆をすりつぶしたり、生地を作ったりして、
楽しそうに団子を丸めました。

3人は簡単な言葉しか話せないの、身振り手
振りを交えて精いっぱいに教えました。料理が得
意なグエン・ティ・クエンさん(32)は「母親で
もある私にとって、子どもたちと一緒にベトナム



食文化交流会に参加した
皆さん

料理を作ることがうれしかった。日本の子どもはおと
なしい印象でしたが、自分の娘のように元気いっぱい、
とてもかわいかったです」と話しました。

町民登山や文化祭など、妹背牛町内のさまざまなイベ
ントに参加しているラム・アイ・ヴィさん(19)は「日
本の子どもたちと一緒にお菓子を作る交流会も楽しかつ
た。また参加したいですね」と笑顔を浮かべました。